

第9回 契約・調達管理会議
議事要旨

1 開催日時

令和6年1月24日（水曜日）15時00分から16時00分まで

2 開催方法

オンライン

3 出席者

(1) 委員（敬称略、五十音順、○委員長）

○鶴川 正樹	監査法人ナカチ／公認会計士
小澤 洋之	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営 本部財務部シニアマネージャー
金谷 晃臣	東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部事業調整第二課長
清水 俊二郎	東京都生活文化スポーツ局事業調整担当部長
滝口 広子	北浜法律事務所・外国法共同事業／弁護士
灘野 邦敏	一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会
藤川 太郎	一般財団法人全日本ろうあ連盟

(2) 事務局

東京都生活文化スポーツ局

4 要旨

(1) 開会

(2) 議事（発言者の敬称略）

ア 令和6年度労働者派遣（事務補助業務等）（単価契約）【資料1】

<説明・確認>

・ 案件の概要について事業担当者から主に以下を説明。

(ア) 東京2025デフリンピックの開催準備業務の補助を行っていただくため、労働者派遣契約を実施する。

(イ) 業務内容は、労務管理、給与・旅費支給事務、契約事務、会計事務の3つであり、派遣期間はいずれも令和6年4月から令和7年3月まで、人数は業務量を鑑み、労務管理、給与・旅費支給事務は2名、契約事務及び会計事務は各1名である。

<質疑・意見など>

灘 野：人材派遣ではなく、非常勤職員を採用するなど直接雇用の方が人件費も安くなるかと思うが、そうではなく人材派遣を選択した理由を教えてください。

担当者：折衝や調整といった業務ではなくて、定例的な業務を行っていただくため、固有職員ではなく人材派遣を選択した。固有職員の採用は、現在、手続きを行っているところであり、それとは別に人材派遣の契約を実施したい。臨時職員についての事業団の規定は短期間のみの設定になっており、今回想定している業務は、1年間、定例的に発生する業務のため、人材派遣が適当と考えている。

鶴 川：今回、契約期間が令和6年4月から令和7年3月までとなっているが、デフリンピックの開催が令和7年11月であり、令和7年度も継続する業務があると思われるので、1年間だけではなく、複数年度継続する契約方法も検討いただきたい。

担当者：人材派遣の予算は都にて単年度で措置されていることから、契約も基本的に単年度で実施するものと考えている。令和7年度にも人員が必要であれば、人員定数や予算措置を行った上で、契約することを考えている。

イ 東京2025デフリンピック大会備品等に関する計画アドバイザー委託【資料2】

<説明・確認>

・案件の概要について事業担当者から主に以下を説明。

(ア) 東京2025デフリンピックの競技・会場運営の準備にあたり、令和6年度から本格化する関係者調整に向け、令和5年度内に基礎的な要件等を整理する必要があり、このうち特に備品等については、事業者の専門的な知見によるアドバイザーを受ける必要があるため、事業団が作成した備品等に関する計画に係るアドバイザー業務を委託する。

(イ) 入札手続きを行った結果、低入札となったため契約締結前に付議する。

(ウ) 契約担当部署において、仕様内容を確実に履行できるかどうかなど落札者へのヒアリングを実施し、また、公表資料や落札者のホームページなどから受注状況や財務状況、実施体制などの確認を行っており、落札者の履行に問題のないことを確認した。

<質疑・意見など>

滝 口：低入札ということで、仕様書に記載された業務内容を履行する能力があることをヒアリングで確認されたとのことだが、具体的にはどのような項目で確認されたのか。

担当者：ヒアリングでは、仕様書の内容を履行できるか確認を行っている。また、契約金額を契約締結後に増額できないことや、後続の契約の優位性はないことを落札者が認識していることを確認した。

滝 口：アドバイザーリー委託なので、おそらく実際に入札金額を決めるにあたっては、ほぼ人件費かと推測しているが、仕様書にて発注者側で想定している人工と、落札者が想定している人工にそれほど齟齬がないというような理解でよいか。

担当者：仕様書の内容について、齟齬があり得るところをお互い確認して履行に問題がないことの確認をした。

滝 口：最低賃金を下回るような人件費でないと履行できないような金額になっていないという理解でよいか。

担当者：人件費の方で負荷がかからないようにということは落札者に伝えている。

鵜 川：予定価格を立てる際、どのように積算されたか。

担当者：複数の業者から参考見積を徴取し、内訳として責任者、担当者の人数や各金額、会場の調査において各競技で金額がいくらかという内訳をもらっている。

鵜 川：落札額で履行できるという点はどのように確認されたか。落札額の内訳書はもらっていないか。

担当者：落札額に係る内訳書は徴取していないが、内訳のヒアリングを行った。

小 澤：当初、参考見積を徴取した段階では、会場調査費を積み上げていただいていたが、入札結果が出た後、落札者へヒアリングをした際に、落札者から、会場調査費に関しては、本件契約に係るデータやノウハウをすでに持っている部分もあり、省略できる部分もあるというような話を聞いている。ある程度、落札者のノウハウを活かすことによるコストダウンを含めて、経営判断としてこの価格でできるということを聞いている。

鵜 川：今回のような低入札の場合は、問題なく履行できるかどうかを確認する必要がある。ヒアリングにて確認されているということだが、今後は履行保証のためにも口約束ではなく、何らかの書面で確認していただきたい。

藤 川：本件の場合、会社として、安価でも受託することで広告、宣伝の価値があるという考えもあるかもしれないが、いかがか。

担当者：ヒアリングをしたところ、落札者は、広告や宣伝するために、安い金額で入札されたという認識ではなく、あくまでも落札者のノウハウを活かせることから安い金額になったと考えている。

鵜 川：本件については、契約手続を進めていただいて構わないが、後日、品質を確認できるような資料、あるいは人員体制等を書面で徴取し、確認できるようにしてほしい。

ウ 東京 2025 デフリンピックへのサポートに係る調査分析・広報委託業務【資料 3】

<説明・確認>

- ・ 案件の概要について事業担当者から主に以下を説明。

- (ア) 東京 2025 デフリンピックの成功に向けて、大会開催のサポートの輪を広げるプロモーション活動を行うために、企業へヒアリングをかけ、そのヒアリング結果を分析していただくこと、今後、企業等へ働きかけていくにあたり、いわゆるフライヤーのデザインを作成いただく契約を実施する。
- (イ) 入札手続きを行った結果、低入札となったため契約締結前に付議する。
- (ウ) 契約担当部署において、仕様内容を確実に履行できるかどうかなど落札者へのヒアリングを実施し、また、公表資料や落札者のホームページなどから受注状況や財務状況、実施体制などの確認を行っており、落札者が履行能力に問題のない業者であることを確認した。

<質疑・意見など>

藤 川：低入札とのことだが、履行に問題ない旨の確認はどのようにされたか。

担当者：本件は、1月のこの時期から3月の終わりにかけて業者にヒアリングをかけていただく業務が時間的に難しいと想定されたところである。この点は、事前に落札者からも質問を受けており、契約期間の延長や金額の増額は認められないことを回答し、その認識を持っていただいた上で、本入札に参加いただいている。落札後には、落札者に対面でヒアリングを行うとともに、ホームページも確認し、業務実績、業務内容を確認している。また、仕様書に記載された業務内容の誤解も想定されるため、複数社へのヒアリングがあること、履行期間の点でも問題ないか確認をしたところ、時間短縮も含めたやり方を想定しているとの説明も受け、落札者の履行に問題ないと総合的に判断した。

藤 川：時間が短縮できることなどから、履行に問題ないと判断した根拠を口頭だけでなく、書面の確認が求められる。

鶴 川：本件についても先ほどの案件と同様に、契約手続を進めていただいて構わないが、後日、仕様書で書かれた業務について会社としてどういう積算をしたのかを書面で入手していただいて、それに対して人員配置ができるということを確認できるようにしてほしい。

エ 委員長によるまとめ

- ・契約予定案件については、各委員の意見もふまえて契約手続を進めていただきたい。
- ・契約締結前の案件については、今後落札金額の積算内訳を入手し、金額が低くなった理由を確認するとともに、仕様を確実にかつ適切に履行できることなどを書面で確認できるようにしていただきたい。

(3) 閉会